

・組合員とJA、そして地域を結ぶ広報誌

No.595

くみあいだより

KUMIAI DAYORI



©三ヶちゃん

特集

新年
ごあいさつ

ヨーロッパ農業海外視察レポート
信頼に応える管理を行つてみたら凄かつた

令和元年産温州ミカン年内の販売経過と年明けの販売見通し

変化の中持続して歩む

2020

1



HP



LINE

三ヶ日町農業協同組合

新年ごあいさつ

変化の中 持続して歩む



三ヶ日町農業協同組合
代表理事組合長

後藤 善一

組合員・地域の皆さん、
新年明けましておめでとうございます。
2020年が皆さまにとりまして
ご健勝で希望に満ちた
素晴らしい年となりますよう、
心よりご祈念申し上げます。

現実を見よ、未来を語るために

今回お話しするのは、変化の話です。
農協は今、大転機を迎えてます。なぜ、変化
が必要か…それは、昨今の農協改革を受けて
という話ではありません。今、世の中そのもの
が大きく変わっているのです。まずその現実を
認識しなければいけません。

環境激変下にある農協系統

7つのキーワード

1. 70年存続した 中央会制度の廃止

「組織は変化に対応できるか？」

農協の元となる法律＝農協法が
改正されました。改正により昨年
度から全中は社団法人に、中央会
は連合会へと組織が変わり、農協
の監査は中央会ではなく、一般の
会社と同じく公認会計士が行うよ
うになりました。懸念するのは、時
間が経つほど農協グループとして
のまとまり、国内外での位置づけ
が不明瞭になることです。改めて
グループとしての代表機能、総合
調整機能を構築する必要がありま
す。

2. 金融情勢の不透明さ

「信用事業の悪化」

金融緩和政策による低金利が大き
きな影響を与えてます。すでに
5年が経過したものの出口対策は
不透明なままです。マイナス金利
は金融業界に影を落とし、農協の
信用事業も悪化。農協合併、信用事
業の代理店化が現実味を帯びてき
ています。

4. 他業態の 農業分野への進出

「どう競い、連携するか？」

農業界以外の業態が「スマート
農業」に参入しています。オプティ
ム社、ヤフー、パナソニック、NT
T、デンソー、ヤマハ発動機、スズ
キ、クボタなどは農家と直接契約
し、自社製品を貸与したスマート
農業で生産したものを販路開拓
し、売るという新しい展開を始め
ました。オプティムの「AI米」、ヤ
フーの「ドローン小麦」デンソーの
「トマト自動収穫ロボット」、クボ
タの「GPS無人トラクター」など
です。

デジタル・イノベーションの進
展によって、他業態が農業を「魅力
的だ」「今後の成長分野だ」として
農協もこれに応じた営農指導事
業や信用事業の業務・人材・店舗
等の革新が求められます。農協の
総合事業という特性を生かすため

このため、柔軟な組織編制が必
要です。全国単位、県単位、農協と
いう3段階の縦割りのみで硬直し
ないように、事業、人事、データ
ベース、意見の集約など横断的な
ネットワークが必要です。そのた
めにはデジタル技術の活用が必要
となります。

3. デジタル・ イノベーション

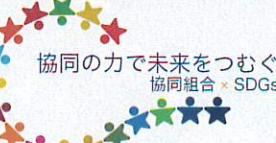
「新技術が既存を壊す」

「IoT」、「ビッグデータ」、「ロ
ボット」などデジタル技術が目ま
ぐるしく発展しています。例えば
金融での「ファイントech」、農業
の「スマート農業」。新技術が既存
の業務を搖るがっています。

農協もこれに応じた営農指導事
業や信用事業の業務・人材・店舗
等の革新が求められます。農協の
総合事業という特性を生かすため

デジタル・イノベーションの進
展によって、他業態が農業を「魅力
的だ」「今後の成長分野だ」として
農協もこれに応じた営農指導事
業や信用事業の業務・人材・店舗
等の革新が求められます。農協の
総合事業という特性を生かすため

未来の3つのキーワード 協同組合の新たな視点



- ①持続可能な農業への貢献
- ②安全安心な食料供給への貢献
- ③持続可能な地域コミュニティへの貢献
- ④農林水産業の基盤としての自然環境の保全
- ⑤透明性のある組織経営体制の確保

2. ディーセント・ワーカーと働き方改革

働きがいのある人間らしい仕事

昨今、協同組合において、雇用主が雇用する職員や働き手にどんな環境や待遇を与え、雇用の問題はどう向き合うかが急速に注目され

3. 大転換期における変革人材の育成

変化に対応できる教育のありかた

未来の農林水産業を考えると、農林水産業以外の分野からの視点が欠かせません。単一の知の深さに加え、より広い面からの知の探索が不可欠です。

農林水産業の大転換期を迎えた今、農業の現場を熟知し、文理融通

1. SDGsとリンク

持続可能な社会づくり

気候変動は我々の農林水産業に大きく影響を与えます。基盤となる農林水産業を持続するためにも、今世界中で提唱されているSDGs（＝持続可能な開発目標）に沿った持続可能な社会への貢献が求められています。

世界の協同組合は、組合員中心の運動・事業体として20世紀に大發展をとげました。次の21世紀の協同組合は、「ディーセント・ワーカー」のモデルとして協同組合で働く人の労働環境を改善し、働き方の面で経済社会をリードしていく役割も期待されています。

私は働きがいがあり人間らしい仕事を『ディーセント・ワーカー』を推進しており、協同組合がその普及に大きな役割を果たすと期待しています。

厳しくとも現実は変えられません。しかし、嘆くのではなく、未来にむけてどうしたらいいか考えるのが前向きです。今回はその変化と兆しを交通整理して、組合員・役職員で共有し、「では、これから農協をどう良くしていくか」を考える土台にできれば幸いです。

結びにあたり、新春早々に開催いたしました第43回農協祭を契機として三ヶ日町農協のさらなる発展のため、組合員の皆さんとともに頑張ってまいります。本年も変わらぬご支援をお願いいたします。

代表理事組合長 後藤 善一
代表理事専務 井口 義朗
理事金融共済部長 片山 雅光
代表監事 和田 幸芳
常勤監事 森下 常則
役職員一同

5. 少子高齢化と人口減少

地域創成へどう貢献するか？

特に、「少子高齢化」、「人口減少」により、地方はかなり衰退しています。農協の組合員組織は弱体化し事業の低迷に拍車をかけています。今年から2025年にかけて1県1JAを目指す県は、約20に上ります。

地銀も県域を越えて合併・統合に取り組んでおり、持ち株会社方式による実質的な代理店化が始まっています。

地域に根づく農協は、農業振興を前提に地域創成への貢献が必要です。地域の課題に対し地域総合戦略を策定し、推進する必要があります。人手不足に対しては、外国人労働者の整備などが例に挙がります。そして、なによりも協同組合

今後、農協系統はこうした業態とどう競い、あるいは連携していくのか、課題となります。

参入します。

精神に基づいた組合員とのコミュニケーションが欠かせません。

6. グローバル戦国時代の本格化

日本の食は自立しているか？

アメリカンファーストで世界の警察官を降りる米国、アジアの霸權国を狙う中国、帝国主義へ回帰するロシア、英國のEU離脱や南欧の財政悪化などナショナリズムが吹き荒れるEU、紛争と大国の思惑が渦巻く中近東、韓国・北朝鮮のきな臭い朝鮮半島、経済が伸び悩む新興国南米・アフリカなど、世界はグローバル戦国時代に突入し、日本は立ち位置を見直すべき状況です。

他国が自国を優先する中、日本の安保・防衛、外交、経済は他国に依存していないでしょうか。懸念の一つは低すぎる食料自給率です。食糧安保として自給率37%の向上が求められる中、農協の役割は大きいです。

他国が自国を優先する中、日本の安保・防衛、外交、経済は他国に依存していないでしょうか。懸念の一つは低すぎる食料自給率です。食糧安保として自給率37%の向上が求められる中、農協の役割は大きいです。

もしもの時に、必要な事業を継続するため事前の備えが必要です。農協段階はもちろん、県段階、全国段階のBCP危機管理体制の整備はできているでしょうか。全国一体となつた災害支援・保管体制の仕組み作りが必要です。

7. 30年内に75%大災害の発生確率

その時の準備はしてあるか？

農業振興は、災害との戦いです。「30年」とは歴史上、大災害がいつ起きてもおかしくない期間です。専門家は、南海トラフや房総・首都圏直下型の地震、富士山噴火などが「すぐに起きててもおかしくない」と指摘しています。

もしもの時に、必要な事業を継続するため事前の備えが必要です。農協段階はもちろん、県段階、全国段階のBCP危機管理体制の整備はできているでしょうか。全国一体となつた災害支援・保管体制の仕組み作りが必要です。

※事業継続計画。災害などの緊急事態が発生した時に、損害を最小限に抑え事業の継続で復旧を図るための計画。

特集 信頼に応える管理を



全戸出席で行われた出荷前目ざるい会

令和元年産温州ミカン年内の販売経過と年明けの販売見通し

JA静岡経済連販売情報センター 長沼 俊貴

早生は11月8日、青島は12月19日に販売がスタート。年内ミカンの販売経過を振り返り、年明けの販売展望、生産者の皆さまへのお願いをお伝えします。



柑橘選果場で選別される青島

静岡県産の青島の本舞台

普通温州の全国生産予想量は前年比92%（※1）と静岡県も含め裏年の作柄ですが、前回の裏年である平成29年産と比べれば多い量です。懸念は年明けまで残る早生の在庫ですが、いよいよこうしたブランドへの信頼は、お客様に支えられ、築かれてできたものです。

続いて本県産の青島は12月17日から県内各産地で販売が始まりました。マルエムの年内出荷は12月19日から28日。出荷量は約3,000トントで昨年産より少なく、平成29年産よりやや多い量です。単価は平成29年産の販売経験を活かし、年明

けまで見据えた価格帯でスタートしています。

11月8日に始まったマルエムの早生は9,500トンの計画でしたが、ひょう害の発生もあり、7,353トン（※2）の実績となりました。マルエムの引き合いは強く、安定した販売となりました。これはマルエムのミカンが安心・安全はもちろん品質が安定し、安心して扱える魅力的な商品として信頼されているためです。こうしたブランドへの信頼は、お客様に支えられ、築かれてできたものです。

続いて本県産の青島は12月17日から県内各産地で販売が始まりました。マルエムの年内出荷は12月19日から28日。出荷量は約3,000トントで昨年産より少なく、平成29年産よりやや多い量です。単価は平成29年産の販売経験を活かし、年明

年明けからの情勢

こうした状況の中で売り場の確保、価格の維持、次年度につながる販売を見据え、試食販売キヤンペーンを1月から積極的に展開しています。

2月中旬以降の「濃蜜青島」、3～4月販売の本貯蔵「誉れ」などの銘柄商品は、販売先からの認知度も上がり、市場からの要請量、期待は年々増しています。これに応えるように、貯蔵管理、家庭選果など品質管理の徹底をお願いします。

今後も寒い日が続きますが、体調管理には十分注意し、最大限の取り組みをお願いします。

生産者の皆さんにご理解・ご協力を願いするとともに三ヶ日みかんのさらなる発展を御祈願申し上げます。

お客様からの信頼を築く

ブランドを支えるお客様からの信頼を勝ち取りましょう。おいしい高品質な果実を作り、安定出荷すること。また来年と再来年を見据え、連年で安定的に供給する視点で栽培管理をお願いします。

今後も寒い日が続きますが、体調管理には十分注意し、最大限の取り組みをお願いします。

生産者の皆さんにご理解・ご協力を願いするとともに三ヶ日みかんのさらなる発展を御祈願申し上げます。

これまでの経過

早生の販売状況

早生ミカンの全国生産予想量は前年比98%（※1）。10月は気温が高く、着色が進まず、入荷が遅れました。



ひょう害により贈答期には品不足も

ミカンの作柄と天候

全国的に裏年の令和元年産温州ミカン。

果実内容は当初は食味が心配されましたが、8月から9月に、晴天に恵まれ果実内容は糖度・酸度とともに平年並みに回復。サイズは小玉～中玉に仕上がりました。

しかし11月11日に県内西部地区にて降ひょうがあり、早生・青島とともに被害が発生しました。

行ってみたら凄かつた

「世の中が変わっている。よく聞くフレーズですが、実際はどうな

か？ それが三ヶ日にどう関係があり、じゃあ何が足りなくて、これから何をしていくことがこの地域のためになるのか？ そんなことを考えるきっかけを作る研修が始まりました。

2016年にユネスコの無形文化遺産となった協同組合の発祥の地・ドイツ、九州と同程度の面積で世界第2位の農産物輸出額を誇るオランダのスマート農業を視察しました。初年度R-1チームのレポートを紹介します。



DGRV国際事業部での講義。ドイツでは非常に簡略に協同組合が設立でき各分野で利用されている

台風19号の翌日に出発

10月13日(日)、前日の台風19号の被害を把握しきれない中、私たちR-1チーム14人は三ヶ日町農協を出発しました。早朝5時30分、車のヘッドライトに照らされ、かけつけ

団長 河西 佳宏 (津々崎)

このレポートは特に参加に迷っている、未來のR-2チームに向けています！ぜひ行ってください！資料やレポートを見ると、分かった気になるかもしれません、私たちがそうだったように一緒に歩いて肌で感じ、意見を交わしてほしい。そう考えています。



今回は私たちの所感を主に掲載しますが、次に行った方は違う感じがあると確信しています。



次世代農業後継者・農協職員合同海外視察研修

令和元年度にスタートした研修制度。若い手農家と職員が合同で海外を視察する。6年間の継続として毎年募集する。目的は将来に向けて、地域に貢献できる人材を育て、相互の交流を図ること。三ヶ日町

農協の大規模な海外研修は昭和40年代以来の再開となる。初年度のR-1チームは14人が、10/13~19にヨーロッパへ。現在R-2チームを募集中。

申込書は同封のチラシをご覧ください。

ド ドイツは協同組合を活用する

約3時間の睡眠の後、初日はライン川を船で北上。アルプス山脈からヨーロッパを縦断する古くからの交通の要です。傾斜にはブドウ畠が広がっており、後にスーパーでワインがとても安く並んでいるのが確認できます。最初の研修先は、旧西ドイツの首都ボン市にあるDGRV（ライファイゼン協同組合中央会）の国際事業部です。JAグループでいう全中のような協同組合の代表組織です。ここでは、ドイツにはどんな分野でどんな協同組合があり、国内でどのくらい普及しているかを学びました。その後、協同組合の祖、ライファイゼン氏の生家でその始まりを教えてもらいました。日本が江



故ライファイゼンの功績を遺す生家。最初のアイデアの大切さと今後の課題にアイデアで立ち向かえとメッセージが残されている



アイデアをもって前進を

河合 将暢 (摩訶耶)

ライファイゼンを視察して、協同組合の原点、そして変化の大切さを学びました。自分たちの農業も守りではなく、アイデアを出し合って自ら変化していきたいと感じています。一方で、自分の所属する組合組織も昔のまま変わらないではなく、組合員の変化に対応し、新しいことのできる組織であってほしいと思っています。ただ、自分たち組合員が利用者感覚ではいけないかもしれません。ライファイゼンの「3S」の通り、まずは自分自身が自立した経営をたて、自分たちで助け合い、組合員として働きかけて、アイデアを持って一步一步、組合の歩みを進めることができればと思います。



感じ方の違いに発見

石橋 智仁 (大福寺)

海外に行って、日本の当たり前は世界の標準ではなく、文化の一つにすぎないことを実感しました。滞在中はイモ・イモ・イモで、お米が恋しくなりました。「日本のご飯はおいしいんだな…」と改めて気がつきます。視察中はいろんなものを見て、考えさせられました。視察中に誕生日を迎えて、ケーキや歌、プレゼントを貰ったのも忘れない思い出です。

よかったですのは、こうした過程を個人ではなくチームで共有できたことです。帰ってきてから報告会に向けて話し合いをすると、みんなそれぞれ感じ方が違う。これが印象的でした。だからこそ行ってみた経験は、言葉だけで伝えることができません。それぞれの違う感じがあるはずです。この事業は継続が前提だと聞いています。このチャンスによりたくさんの人に行ってもらいたいし、感じてもらいたいと強く願っています。

た役員が激励してくれました。巨大台風の影響で飛行機は遅れ、いろいろあって、バスを乗り継ぎドイツのフランクフルトの宿へたどり着きました。29時間が経っていました。現地のテレビから水没した北陸新幹線の映像が流れていたのを覚えています。

ド ドイツは協同組合を活用する

戸の時代、ヨーロッパで大変な飢饉がありました。当時、貧しい農村の村長だった若きライファイゼンは知恵を絞り、パン焼き小屋を建て、そこに小麦や労力を持ち寄つてパンを焼いて配り、多くの人を飢えから救いました。また農民が高利貸に騙されて担保の農地や家を奪われる惨状を見て、みんなでお金を持ち寄つて低金利で貸し出す組合を作りました。

この協同組合は地域を立て直すアイデアとして国内に広がり、現在の姿に発展しました。町にはライファイゼンバンク、REWEなど協同組合の店舗が当たり前にあり、利用されています。国民の四分の一に当たる、二千万人が組合員となっています。近年伸びたのが再生エネルギー協同組合です。国の施策に協同組合の仕組みが合致し、環境に配慮した再生エネルギーの導入が急速に進んだそうです。

協同組合は時代に合わせて形を変えながら、今も活用されています。ドイツはEU圏で最大の消費地。EU各国から農産物が集まる。産地や品種名は基本的に記載されていない



オランダのスマート農業とは?

オランダの拠点は首都アムステルダム。運河が蜂の巣のように張り巡らされた歴史ある商業都市です。文化の違いは書ききれませ



オレンジバブリカを満載したパケットモービル。自動運転や昇降が可能で、60台ほどが稼働。100万株のバブリカから日量30㌧を収穫するという

ん。一例として、日本と同じ感覚で歩いていたらすぐに自転車にひかれてしまいます。車道の脇には必ず赤い道路があり、自転車がビュンビュン飛ばしています。この自転車道路内では車よりも歩行者よりも自転車が最優先なのです。

農業研修は干拓地にある農業集積地「アグリポート」へ。スマート農業の象徴といえる場所です。ここで見たのはBarendse夫婦の経営する巨大なガラスハウスの農場です。面積はなんと東京ドーム6個分の30ha。あまり広く、ハウス内は自転車で移動するほど。見上げる程高い天井に向かってバブリカが株を伸ばし、BGMが流れ中、カジュアルな格好の従業員が機械に乗つてナイフで収穫。バブリカが満タンになると、機械は自動運転で選果場へ向かつて行きます。

何がすごかったか。まずエネルギーです。ハウスを暖める温水パイプは地下2・4kmに繋がっています。地熱を使っているのです。使う電気は天然ガスの発電機で自給しています。ここで驚いたのは無駄の無さです。ガスを燃やして出る二酸化炭素を光合成の促進に施用、熱も暖房に活用。また余剰電力は売電してお金に換えています。そ



アムステルダムは運河と自転車の街だった。海拔2m、面積の四分の1を水面が占める

バーンズBarendse農場の案内役のHansさんは元海軍の技術者

温水パイプはモービルのレールも兼ねている。広いハウス内の環境はコントロールされ、害虫が発生しても天敵で対処するという



従業員のIDタグで雇用管理の負担を減らしている

昔と今、何が求められるか?

山崎仁也 (長根)

募集を見て、すぐに参加を決めました。ドイツの「ライファイゼン」を聞いたのも正直初めてだったし、オランダの「スマート農業」も聞きかじった知識だけです。ただただ、「ヨーロッパ」と聞き、その文化や空気に触れたいと思いました。

ドイツのライファイゼンで感じたのは協同組合の「自助」「自律」「自己責任」の重要性です。これまで意識したことがない視点でした。ライファイゼンの生まれは小さな田舎町で、苦しい生活が想像できます。その当時、協同組合は本当に生活のために生まれたのだと思います。

一方で、現代は正直そこまで生活には困っていないくて、自分が就農した時も組合が成熟した状態で農業生活を始めました。「昔」と「今」で求めるものが違う。今後の協同組合のあり方を考えさせられます。

オランダの花市場は日本一の大田市場をはるかに上回る規模で、驚いたのが「どんな国へも24時間以内に輸送する」という流通システムです。この流通があってこそ、オランダの農業生産があると感じました。世界に出るには、まだいくつもの壁があると感じました。

今回、自分たちが見た農業の現場はハウスだけでしたが、他の露地農業や酪農の現場ももっと見てみたいと感じました。次回に反映いただき、今回と同じように、若い農業者と職員と一緒に経験する機会としてほしいです。

して肥料は専門家の診断のもと、19種類の成分をブレンドして供給し、水はリサイクルしていました。また、雇用環境も配慮を感じました。ハウス内にはカフェのような休憩室や立派なトイレがあり、これは気持ちよく働けるだろうなと感心しました。日本と比べて反収は4倍、人件費は三分の一ともいわれます。

ハイテクに目を奪われましたが、なんのた

めに導入しているかという視点が大切かもしれません。そうしないと「高すぎる、デカすぎる」のはそれが環境にやさしいからです。「新しいモノ好き」で

飛びついているわけではありません。この課題、三ヶ月も同じだと思いませんか。

実は帰り道に、巨大なトラクターの一団とすれ違いました。彼らは抗議デモから帰る農業者でした。10月上旬にも国中から農家が集まり、史上最大の渋滞を起こし社会問題となりました。彼らは「農家のせいでの温暖化が進む」という議員の発言に「すでに配慮してきた。国民全体で考えるべき問題だ」と訴えているのです。こうしたスマート農業の背景は行つてみないと分からぬものです。



環境への意識から、有機野菜の専門スーパーも人気

浸透する食と環境の意識

夏目勇人 (鶴代)

オランダのバブリカの生産現場を見た後にふと気が付いたことがあります。前の日程のドイツの通訳のガイドさんが「ヨーロッパではアレギーや花粉症がとても少ないよ」と言っていたことです。この背景に、農薬を使わなかったり、環境に配慮したり、生産・流通という流れで「最後は食卓に届く」という意識が、各段階でできているのではと考えました。

僕たちは日ごろコンビニで買い物をするけど、ヨーロッパに行くと、そもそもコンビニ自体がほとんどありません。あっても、並んでいるのは保存料や着色料が使われていない商品であるとか、調味料が塩コショウやスパイスだけとか、体に悪い食事が少ないようでした。「食と環境への意識」日本との違いが印象に残りました。

現状維持はいつか「衰退」

後藤健太郎 (本坂)

磐田市でオランダ式の4.7haのハウスを見たときも「大きい」と感じましたが、本場はさらに桁が違う。圧倒されました。規模が大きくて、品質を重視し、なおかつ環境への配慮もする…町内でミカンを作っているだけでは、到達できない視点でした。

昔、研修先の農家の親父さんの言葉を思い出しました。「去年と同じ現状維持なら、それは時間が経っている分『衰退』をしているんだからな」とよく口していました。現状に満足せずに常に新しいものを取り入れるオランダの思考は勉強になりました。見て、考えさせられた刺激的な視察でした。

言葉の壁を超える行動力と技術

メンバーの様子はどうだった?

メンバーの様子で驚いたことがあります。それは、言葉も通貨も違うのに、思い思にどんどん行動するところです。スマートフォンの地図や、翻訳アプリを使ったり、「ポケットク」を持ち出したり。支払方法のよくわからぬい路面電車に乗りたり、日本ではあまり普及していない「UBIWER」を活用したり。その行程を随時SNSで発信するメンバー。言葉の壁を越え、よくここまで行動できるものだと感心しました。一方、DGRVの講義では、質疑応答が続き、先方のランチの都合で打ち切られるほどで、よく学びよう遊びました。

特に最年少のメンバー2人。オランダで最も行動力のある彼らは、常に新しいことを学んでいます。彼らは、言葉の壁を超えて、世界中の農業者とつながるための行動力と技術を身につけました。



国ぐるみの姿勢と空気

久米龍志(宇志)

ヨーロッパも海外旅行も生きて初めての経験でした。これまで行ったこと、感じたこともない、向こうの文化や空気に触れたのがとてもよかったです。

研修の中で、印象に残ったのはドイツのライファイゼン連盟の視察です。日本やアメリカのような利益優先の競争社会との違いを感じ、利益よりも社会への貢献や奉仕への優先を国家ぐるみで取り組んでいる姿勢をうらやましく感じました。

今回参加をしたことで、自分は「もっといろいろな国を見てみたい」と感じるようになりました。

最後にもう一度迷っている皆さん、ぜひ行きましょう! 今回、こうしたメンバーが「行こう」と声掛けしてくれたのは、あるメンバーが「家族が」「仕事が」「その時期は」「一週間はちょっと」と正直、思い切れなかったり、自分の行動力に明るい未来を感じました。



若い人ほど財産に

高橋洋和(只木)

僕は、農業はミカンのことしか知りません。協同組合も三ヶ町農協のことしか知りません。そんな中でオランダでは最先端の農業を学びました。ドイツでは自分たちも所属する協同組合の起源を学びました。あともう少しで40という年齢の中「もっと若くして行ければ…」と感じましたが、僕の残りの少ない農業人生(あと30年、40年はミカンを作るつもりですが)の財産になると感じています。

今回、このメンバーで寝食をともに、ひとつのものを見て感じられたことがなにより嬉しいです。それが組合の元祖だと思います。より若い皆さんに、こうした経験をしてもらいたいです。

繋がりとアイデア大切に

県 裕一(柑橘課)

ミカンに向けて大切な時期で、正直悩んだのですが、上司から「大丈夫だから、行ってこい」と背中を押され、参加を決めました。最初に視察したライファイゼン。農協職員になると認証試験で二宮尊徳とライファイゼンのことを最初に学びます。それを思い出しました。ドイツの中で協同組合が生活の深くまで浸透している様子を肌で感じることができました。

オランダではパブリカのハウス、花市場を見てその規模の大きさに圧倒されました。今後は柑橘選果場の投資を控えており、少しでもアイデアを取り入れて良いものにしたいと思っています。今回、年齢の幅のある中で参加させてもらいましたが、自分も農青連を卒業した年代の中で、若い生産者と知り合うことができました。こうした繋がりを今後の財産としたいと思います。

列車で国境を越える。ドイツのケルン中央駅からオランダへ

生産を支える物流と販売力

県 賢治(農産課)

一番印象的だったのはスマート農業です。仕事上いろんな施設、近年は植物工場などを見学させてもらっていたのですが、これまで見たものではあるかに上回る大きさに驚きました。また視察の立地も流通を考えたものでした。その大きな施設の経営や、生産し販売する力もすごいと感じました。なかなか接点のないメンバーと事前の研修、現地での1週間の研修、事後の研修と一緒にさせてもらって、より多くの見聞を広げることができたと思います。まさにありがとうございます。

担い手に貢献できる職員へ

久米 覚(組織広報課)

帰国後のひょうの被害のあと、若い職員からの「今、農家さんが困っている。こういう時にこそ助けになりたい」という声に、視察先で聞いた協同組合の起源を思い出しました。11月中旬、ひょうの被害を受けたであろう若い生産者が、貴重な時間とミカンを持ち寄って幼稚園や保育園にミカンを配布する姿は、余計に心に響きました。今回、担い手農家の皆さんと一緒に見て感じて、意見を聞く中、その未来に貢献できる農協の職員でありたいなど強く感じるようになりました。機会をいただき感謝しています。ありがとうございます。今後もこの研修が農家と職員の接点になればと思います。

自分たちの組合を知らない

清水 雅也(長根)

印象に残ったのはドイツのライファイゼン連盟の視察です。そこでは協同組合の成り立ちや、組織構成を教えてもらいました。正直なところ話が難しくて、自分はその場で質問をすることができませんでした。後で振り返って感じたのは、自分は今まで農業の知識や技術にばかり興味があるけれど、ライファイゼン以前に、自分たちの所属している出荷組合や農協について何も知らないということでした。これに気が付いたことが、今回、一番の得たことかもしれません。これからも地域の輪に積極的に参加し、みんな一丸となって三ヶ月を盛り上げていきたいと思います。

これからの三ヶ月にやる気

浅野比露(平山)

最高の7日間でした。感じたこと、得たものが多すぎて、まだ何から行動に移していくか分かりませんが、気合が入りました。この海外研修に参加する中で、自分がやっている仕事がすごいことだという実感が沸いてきて、やる気ができました。

研修を終えて、これからの三ヶ月が楽しみになりました。その三ヶ月の中でこれから自分が農業をやることがもっと楽しみになりました。ありがとうございました。

13

特集

12

12

12/7

みっかび牛が県共全3部門独占 共進会史上初の快挙

月7日に行われた、静岡県畜産共進会で、全3部門のトップを「みっかび牛」が独占。一つのブランドが独占するのは、同共進会が始まって以来、初の快挙です。県内から選抜された肉牛が集まり肉質などを競う場で、今回は109頭が出品されました。

摩訶耶の河合畜産(株)は第2部と第3部の2冠を達成し、最高位の農林水産大臣賞と県知事賞も受賞。河合将暢さん(36)は「よく牛を観察しながら丁寧に育てた」と受賞を喜びます。第一部では井口定昭さんが最優秀賞に輝きました。ともに「みっかび牛」の生産者です。

「みっかび牛」は、今年は地域団体商標を取得し、「しづおか食セレクション」にも認定されるなどで名実ともにブランド化の歩みを進めています。



第93回静岡県畜産共進会肉牛の部

(12月7日 浜松食肉市場)

第1部(交雑種)	
・最優秀賞	井口 定昭 (大谷南)
第2部(黒毛和種雌)	
・最優秀賞・県知事賞	河合畜産(株) (摩訶耶)
・優秀賞6席	尾藤 和彦 (只木)
第3部(黒毛和種雄去勢)	
・最優秀賞・農林水産大臣賞	河合畜産(株) (摩訶耶)

第22回全国農業担い手サミット in しづおかの参加者が6日、三ヶ日みかんの園地や施設、産地の取り組みを視察しました。参加者は、全国から集まつた担い手農業者ら約40人。静岡県での開催は、2回目で15年ぶりです。

訪問先は本坂の竹平慶伸さんのミカン園や農業倉庫。マルチ点滴灌水、冷風貯蔵、農機など基盤整備や機械に投資し、品質と規模を両立する農業を見学。農協の選果場では、共同の設備に光センサーやロボットなど最新技術を使って農家の出荷負担を減らし、ミカンづくりが高齢になるまでできる環境を視察しました。

香川県から参加した川西裕幸さんは、法人でイチゴ農園を経営。後継者が多く、組織的に活気ある産地を作っている点に惹かれて参加したそうです。「人手不足の課題が共通している。産地の背景にミカンを作る環境が整えられているのが参考になった」と話していました。



三ヶ日みかんの基盤整備を見学する参加者

12/5-6 全国農業担い手サミット

参加者が三ヶ日に現地見学へ



園主の吉田尚紀さん(奥)と猫の手援農隊の伊藤照久さん(手前)

11/12/28-1

「猫の手援農隊」 ミカン収穫を手助け

猫の手も借りたいミカン収穫最盛期。農業ボランティア「猫の手援農隊」の10人が三ヶ日町農協を訪れ、5軒の農家で収穫作業を支援しました。援農隊は都市部に住む人が農村で農業の手伝いをして交流を深める目的で結成。三ヶ日町農協は平成24年から受け入れを始め、今年で8回目です。

援農隊の伊藤照久さんは毎年三ヶ日みかんの収穫に参加しているベテランです。「農家さんが一年かけて立派に育てた作物。収穫のお手伝いをさせてもらうのは楽しく、やりがいがある」と笑顔で話し、手際よくミカンを収穫していました。

洋ランフェア盛況 年始を三ヶ日の花で飾る

12/20-22



三ヶ日洋ラン部会は特産物直売所で3日間限定の洋ランフェアを開きました。

例年約1,000鉢を売り上げる直売所の目玉イベン

トで、店内には黄色やピンク、白など多彩なシンビジュムが並び、開店と同時に大変賑わいました。

同部会では、年間約27,000鉢を関東・中京方面の花き市場へ出荷しており、ピークは12月。即売会は、お正月を地元の花で楽しんでもらおうとの時期に開いています。主力品種の「シンビジュム」は日持ちに優れ、直射日光や温風・高温をさけて管理すると2か月程楽しめるのが魅力です。

フェアはリピーター客が多く、浜松市西区から来た60代の夫婦は「毎年、選ぶのが楽しみで来た。親戚に贈ると喜ばれる」と話します。生産者の夏目等さんは「花は日持するので長く楽しんでほしい。お正月の玄関を洋ランで飾ってもらえば」と話していました。即売会は、1月12日の第43回農協祭や、2月7~9日の洋ラン

災害対策の経過報告

11月11日に降ったひょうの被害を受け、支援活動が行われました。調査は被害直後から開始。15日に農水省が現地入り、20日に国に陳情しました。12月からは農協と中央会職員94人が被害果切り落とし作業を支援。中旬に支援策の説明会が始まりました。



被害の大きい場所では、果実の切り落としが行われた

12/13-16

年金感謝デー

金融課と都筑支所で年金感謝デーを開催し、来店されたお客様に日頃の年金の振込に感謝を伝え粗品を渡しました。2日間で1,157人の方が来店しました。

境保護のため、レジ袋での配布中止のお願いをしました。今回より環境保護のため、レジ袋での配布中止のお願いをしました。



感謝を伝える金融課の職員

家族へ、いつもありがとうございます

今回は、家族感謝デーの紹介です。この行事、すでに10年以上も継続されています。

今年はテーマパークへ

家族感謝デーは1泊2日の旅行に行つてきました。行先の希望を取ると、最近はディズニーリゾートかユニバーサルスタジオジャパンが人気です。

一緒にバスに乗り込み、家族やみんなとの交流を楽しみながら向かいます。なんといっても行き帰り

の運転をしなくてよいので、お父さんは大助かり。家族サービスへの余力も残して到着します。

「バスの中で小さい子供が泣くと迷惑が」と心配するかもしれません、まったくもって大丈夫です。顔を知った盟友同士、誰も気にしません。行き帰りの道中はDVDが車内に流れ、子供は画面に釘付け。トイレも一声かければすぐにサービスエリアに立ち寄つてもらえます。

しっかりサービスして帰路へ

ホテルに付き荷物を預けたら、集合写真を撮つて自由行動。パークに向かって走る家族や、観光へと繰り出する家族などさまざま。翌日の集合時間までは各自フリータイムです。



今年参加の盟友家族



ユニバーサルスタジオジャパンへ

帰りのバスでは、遊び疲れて静まり返る車内。お土産をいっぱい買ってもらい、わがままの限りを言い尽くし満足気に眠る子供達。日々の償いにと頑張ったお父さんの疲労感。しかし、一番満足気なのはお母さんだったりして…。

さて、来年は何処へ行くのだろうか? ワクワクしているお母さん。ソワソワしているお父さん。計画的にへそくりを貯めなければ…。

ミカンの配布ありがとう!
11月のミカン配布のお礼に、園児がお手紙をもってきてくれました。



12月4日手紙を渡す三ヶ日保育園の園児ら

(活)(動)(告)(知)

1月17日(金)~

幼稚園もちつき大会



2月7日(金)

やら米収穫祭



「みんなでやら米」でおもちをついたり、尾奈小児童と一緒に遊びます。

とき:令和2年2月7日(金)
ところ:尾奈小学校



只木支部
山本直弘

12/24

**フレミーズ1・2期生が
合同でクリスマス料理作り**

JYOSEIBU 女性部 通信

手の込んだ料理も大勢で分担して作るとスムーズに

手が作る自主活動グループ「みかんちゃん」と「Smile (スマイル)」が合同活動でクリスマス料理を作りました。

鶏の照り焼きやミートローフ、マカロニサラダにこぎつねごはんなどクリスマスイブに家族で食べるごちそうを、2時間ほどかけて手作りしました。鶏の照り焼きは前日からタレにつけて味をもたらしを塗り重ねるなど手間ひまかけた一品です。緑黄色野菜をたくさん使い、栄養とお母さんの愛情もたっぷり入った素敵なお料理が完成しました。

フレッシュユミーズカラッジ卒業生が喜ぶクリスマスディナー!

12/24

**クリスマスイブに
ケーキ作り**

子どもクリッキングは21人が参加し、恒例のクリスマスケーキを作りました。生クリームを泡立て、静岡県産のイチゴや持ち寄ったお菓子などを飾り、自分でオリジナルケーキを完成させました。「家族とケーキを食べるのが楽しみ!」とみんな笑顔で話していました。

新春を感じさせる黄色いオンシジウムをはじめ、ねじり松や南天など縁起の良い植物を植えた鉢はお正月の玄関を華やかに彩ってくれそうです。

12/27

**お正月を華やかに
寄せ植えで**

グリーンクラブ3回目は「花のあがた」の縣慶一さん夫妻を講師に迎え、寄せ植えを行いました。

ミニ羽子板などお正月らしい飾りもの



手の込んだ料理も大勢で分担して作るとスムーズに

手が作る自主活動グループ「みかんちゃん」と「Smile (スマイル)」が合同活動でクリスマス料理を作りました。

鶏の照り焼きやミートローフ、マカロニサラダにこぎつねごはんなどクリスマスイブに家族で食べるごちそうを、2時間ほどかけて手作りしました。鶏の照り焼きは前日からタレにつけて味をもたらしを塗り重ねるなど手間ひまかけた一品です。緑黄色野菜をたくさん使い、栄養とお母さんの愛情もたっぷり入った素敵なお料理が完成しました。

女性部 絵手紙教室

東町
高橋睦美さん
の作品



新年明けましておめでとうございます。今年はねずみ年。シンプルでかわいいねずみさん。黄緑色のパックの色が春を呼んできました。本年もよろしくお願いします。

講評:坪河千寿子先生

12/27

**お正月を華やかに
寄せ植えで**

グリーンクラブ3回目は「花のあがた」の縣慶一さん夫妻を講師に迎え、寄せ植えを行いました。

新春を感じさせる黄色いオンシジウムをはじめ、ねじり松や南天など縁起の良い植物を植えた鉢はお正月の玄関を華やかに彩ってくれそうです。

12/27

**お正月を華やかに
寄せ植えで**

新年明けましておめでとうございます。今年はねずみ年。シンプルでかわいいねずみさん。黄緑色のパックの色が春を呼んできました。本年もよろしくお願いします。

ミニ羽子板などお正月らしい飾りもの

ゲッツ スマイル

日比沢 河合さん家の



たかと
誉斗くん(3)



あいな
彩結菜ちゃん(2)



まゆな
麻結菜ちゃん(2)

お父さん:義徳さん
お母さん:菜奈さん



パプリカを踊る三人

乗り物が大好きで元気いっぱいな誉斗くん。お調子者のところもあるけれど、妹達から慕われる優しいお兄ちゃんです。じいじやお父さんにトラックやフォークリフトに乗せてもらうこと、足こぎの車に乗るのがお気に入りです。三人の中で一番のほほんとしている彩結菜ちゃんはのんびりマイペースな女の子。喜怒哀楽が激しいという麻結菜ちゃんは活発でおてんばな女の子です。

双子の二人はお兄ちゃんの真似をするのが大好きで、三人で遊んでいるとまるでやんちゃな三つ子のようです。彩結菜ちゃんと麻結菜ちゃんはおままごと遊

びと歌が好きで、最近のお気に入りは「パプリカ」です。撮影時のお兄ちゃんと三人で「パプリカ」を振り付けで披露してくれました。

明るい三人の大好物はお母さんが作るカレーライス! ばあばはブロックなどのおもちゃでよく遊んでくれるそうです。

家族で「レゴランド」に行ったことが楽しかった♪と話してくれました。

祝! 新成人



元気で優しい子に育ってね!

おいしいをつくりましょ。

三ヶ日産の農産物を使い、素材のおいしさを引き出して料理を楽しんでいます。

主菜は三ヶ日みかんや三ヶ日ポークなど
三ヶ日町の特産物を活かした料理。
アスパラ、タマネギ、ニラ、ピーマン、トマトなど三ヶ日産の野菜を
バランスよく組み合わせてあり、身近な素材の良さに気づく
ことができる。料理教室では普段のご飯はもちろん、ちょっとアレンジしてごちそうにもできる使い勝手のいいレシピを教えてもらえる。

鶏モモ肉の
ミカン
重ね焼き

三ヶ日産で

Menu31 見た目も栄養も満点の料理

料理教室の講師は遠州病院の管理栄養士・中根ひろみさん。管理栄養士が考える献立の基本は一汁三菜。毎回ヘルシーで栄養バランスよく、見栄えのよい料理

彩り豊かで味もボリュームも大満足!

ができます。しかも、デザート付きで1回550円という破格の値段! 参加者はおしゃべりしながら楽しく料理して、昼には完成したランチをいただきます。

微妙な味付けもすぐに先生に確認できる

ニラ
まんじゅう

豚肉と
アスパラの
ビネガー煮

地産地消と旬のものを大切に

カボチャと
トマトの
カレー炒め

甘夏
シフォン
ケーキ

三ヶ日産の甘夏の香り、サツマイモの甘みなど素材の風味を生かしたデザートは単品でも食べ応え十分。甘夏のペールを入れて香りを出す、サツマイモを裏ごしせずにつぶして食感を残すなど、素材を生かして味わう工夫が随所になされている。

スイート
ポテト

サツマイモの
スイートサラダ
クレープ

身近な食材も調理法次第でごちそうに!

三ヶ日産の食材、とくに旬の野菜や果物のおいしさを生かすことを考えてレシピを考えているという中根先生。管理栄養士として常に「健康」を意識しているので、高血圧や糖尿病、動脈硬化をはじめとする生活習慣病の予防に役立つようにたくさんの食物繊維が摂取でき、旨みを生かして減塩にも役立つ献立を工夫しています。「家族の健康のために、家でも同じように料理してほしい。料理教室では簡単に作れて、身近な地場産食材を無理なくたくさん食べられる料理を心掛けている」そうです。

料理教室の皆さん(前列中央が中根ひろみ先生)

女性部ふれあい講座 料理教室

開講 女性部のふれあい講座の中でも最も長く続いている講座の一つ。中根ひろみさんは平成17年から講師を務めている。

講座内容 教室では料理の基本を学び、一汁三菜プラスデザートまでを手作りする。調理後は、炊き立てのご飯と一緒にみんなでランチを楽しむ。

おいしいをつくりましょ。

クッキング Let's try Cooking!

第42回農協祭女性部展 手づくりコンクール
(ミカンフード部門 優秀賞)

冬野菜と鶏肉のポン和え

ポンカンの香りで肉と野菜がさっぱり食べられます。

本坂
竹平元子

<材料> 約5人分

鶏モモ肉	250g
大根	100g
ニンジン	20g
みつば	1束
水菜	1/2束
ポンカンの皮	少々
甘酢	40cc



<作り方>

- ① 鶏モモ肉は一口サイズに切り、ゆでます。
- ② 大根、ニンジンも別にゆでておきます。
- ③ みつば、水菜は湯通します。
- ④ ポンカンの皮は湯通して薄くむき、千切りにします。
- ⑤ 全部を甘酢で和えます。
- ⑥ 甘酢で和えると色が変わるため、みつばを少し残しておいて、盛り付けた時に上に飾るときれいです。

くらしたい。
楽しく
この家族と
大好きだ。
これからも、
ずっと、ずっと、わたしはそんな家族が
みんなで仲良しな家族。
みんなで協力する家族。
みんなでおはなしして、
みんながおもしりや、
みんなのいいところを
「おかえり」と
「ただいま」というと
わたしがほめあう家族。
わたしがおもいやり、
わたしがいいところを
返してくれる家族。平山小学校 6年
山崎 莉緒ぼくの詩
わたしの詩

俳句

集落に 点点とたつ
部活帰りの 子らを迎える
外灯が短歌
有放四季のしおり

職員通信 Mi

金融課で渉外を担当しています。組合員さん宅を訪問し、直接お話をされる機会が多いので、笑顔と会話を大切にしています。理想は組合員さんが何が相談したい時に真っ先に電話をもらえる職員。「群に任せっきりでは大丈夫!」と思ってもらえるようになります。趣味は漫画を読むこととスポーツです。野球とゴルフで体を動かしています。

外山 群(23)
金融課
入職1年目

初詣 千本鳥居も
賑賑し

【平山】 橋田圭子



1月~2月の管理

貯蔵を成功させる

1. 貯蔵管理～大切な果実を守るために～

貯蔵管理は、温湿度計や二酸化炭素濃度計を設置して、毎日貯蔵庫の状況を確認して管理するようにしましょう。

同じ倉庫内でも場所により温湿度は大きく異なっていますので、定期的に貯蔵容器の上下を積み替えるようにして、急な気温変化には気を付けるようにしてください。

入庫量	温度	湿度
1坪当り(3.3m ³) 700~800kg	3~5°C	85%

気温が高い場合

- ・体質が弱くなり、浮皮果が発生します。
- ・病原菌の活動が活発になり、腐敗果の発生が多くなります。
- ・果実の呼吸量が増加し、クエン酸が消費されることで味ボケしやすくなります。

対策 換気を実施し温度を下げてください。朝方の時間帯の換気が効果的です。

気温が低い場合

- ・貯蔵庫内の温度が2°C以下になると、低温障害が発生しやすくなります。

対策 果実にむしろや新聞紙をかけて、すき間をなくすようにするなど、果実に冷気が直接当らないようにしてください。

過湿の場合

- ・湿度が90%以上になると予措戻りが起こり、浮皮や腐敗果の発生が多くなります。

対策 窓を開けるなどの換気を実施してください。

乾燥の場合

- ・湿度が80%以下では、果実の蒸散量が多くなり、しなび果が発生します。

対策 貯蔵箱の上に新聞紙を置く、貯蔵庫内に水打ちや水を入れたバケツを置くなどして湿度を適正に保ってください。
※特に露地箱内の温湿度に注意

換気不足の注意

- ・貯蔵庫内の入庫量が多く、換気が不足すると、二酸化炭素濃度が高くなり、ミカンが窒息状態となって貯蔵臭などが発生します。

対策 適切な入庫量を守り、適度な換気を行ってください。二酸化炭素濃度計を利用するのも効果的です。

2. 樹勢回復～葉面散布が有効～

成り疲れや水分ストレスなどによって、樹勢が低下しています。地温が低い冬期では根からの肥料吸収が弱まるため、樹勢回復には葉面散布が効果的です。収穫終了後から開花期までに3回～5回の散布をしてください。

散布時期	使用液肥	使用倍数	散布間隔
収穫後～	葉面液肥15-6-6	500倍	2週間～1ヶ月間隔

3. 防寒対策～樹を弱らせないために～

冬期は比較的降水量が少なく土壤が乾燥しています。そのため、乾燥と低温による被害で落葉が助長されます。また、旧葉は養分を溜め込む部分ですので、落葉すると樹勢低下などにつながり、花付きにも影響してきます。

- 対策**
- ・灌水、株元への敷きワラなどで土壤が乾燥するのを防ぎましょう。
 - ・風あたりの強い所では寒冷紗の被覆、防風ネット、防風樹の設置と整備で低温を防ぎましょう。

あ、泣いちゃった!? 大丈夫?



令和最初のお正月

大福寺の里見さん宅のお正月は賑やか! 縁側から陽が差す暖かそうな居間の中心にいるのは若菜ちゃん。令和元年7月に生まれた、三姉妹の末っ子です。若菜ちゃんが泣きそうになると、集まつてやすいのは姉妹と従妹一同。元旦は3家族がそろつてお墓参りをして、これから一緒に昼食卓を囲み、お泊りをしていくそうです。

お正月に次々に玄関にやつてくる来客も、賑やかな子供たちの声に迎えられ、皆さん嬉しそうな様子でした。2020年も良い年となりますようになりますね。

表紙のどこかに今年のかわいい干支が隠れていますね。



ハイハイまで
あとちょっと

ばあばのお正月は大忙し!?



お年玉はもらえたかな(従姉のお姉さん撮影)



J.A.みづかび 検索



撮影場所/令和2年1月1日(水)三ヶ日町福長 里見隆道さん宅で